

令和元年度第2回南薩保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について

日 時：令和元年11月1日（金） 午後6時30分から午後8時30分

場 所：南九州市知覧文化会館 大会議室

出席者：19名（代理出席2名を含む）

傍聴者：10名

内 容

1 開会

2 報告及び意見交換

- (1) 鹿児島県における定量的基準について
- (2) 公立病院・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について
- (3) 南さつま市立坊津病院の2025年に向けた具体的対応方針について
- (4) 外来医療計画について

3 その他

4 協議結果

(1) 協議事項

- ・公立病院・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証については、今後国より発出予定の「具体的な協議の進め方に関する通知」に従い協議を進めていくこととする。
- ・南さつま市立坊津病院の2025年に向けた具体的対応方針については異議なく合意。
（一時的に一般病床が増加することについても、病床転換過程として了承）
- ・外来医療計画については「外来医療機能に関する医療機関調査」を実施し、事務局が「報告書（案）」を作成の上、調整会議委員に書面で協議を行い、その協議結果を反映した最終の報告書の作成については議長に一任することとした。

(2) 意見

- ・今回厚生労働省が実施した「再検証対象医療機関の公表」は唐突で、住民や当該医療機関に勤務する職員へ与えた不安は大きかった。
再検証要請対象医療機関となった事については真摯に受け止め、公立病院としての役割が果たせるよう責任を持ってプランの見直しを行い、調整会議の意見も踏まえながら、皆さんの理解が得られる様な形で進めていきたい。
- ・（再検証要請対象医療機関の公表に用いた）データの信憑性に疑問が残る。新聞で名前が挙げれば風評被害が生じるのではないかと心配がある。そういった事についてはこの調整会議で訂正をしていただきたい。
- ・再検証要請対象医療機関の公表は地域住民や地域に根ざした医療を提供している医療現場の声を度外視したものであり、多くの公的医療機関が非常に憤慨している。公立・公的医療機関の役割としてセーフティネットや不採算部門の医療の提供は大きく、地域住民はそこを強く求めているし、まちづくりに資する部分である。
- ・地域医療構想は将来の人口減少を見据えてみんなで議論することが大事。将来の人口に見合った病床のバランスを考え、公民一緒に整理していかなければならない。医療だけでなく介護保険（介護療養病床は介護保険で請求）の方も一緒に考えておかなければならないと思う。
- ・外来医療計画作成に係る現状に関するデータは非常に綿密に分析されており、圏域の状況について初めて知り驚いたデータもあり有用であると感じた。しかし、項目が多いため概要版を作成して欲しい。